

第49週の発生動向 (2005/12/5~2005/12/11)

1. 水痘は、**上十三保健所管内とむつ保健所管内**で新たに**注意報**が出されました。
2. 伝染性紅斑は、**青森保健所管内**で引き続き、**弘前保健所管内**で新たに**警報**が出されました。
3. 流行性耳下腺炎は、**五所川原保健所管内**で新たに**注意報**が出されました。

第49週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	2	0.15			21	1.50			20	2.22			43	0.66	9
(60) 咽頭結膜熱															-3
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	4	0.50	16	1.60	1	0.11	3	0.60	4	0.67	3	0.75	31	0.74	-9
(62) 感染性胃腸炎	44	5.50	55	5.50	45	5.00	7	1.40	76	12.67	53	13.25	280	6.67	19
(63) 水痘	23	2.88	11	1.10	8	0.89	12	2.40	27	4.50	25	6.25	106	2.52	8
(64) 手足口病	2	0.25											2	0.05	1
(65) 伝染性紅斑	8	1.00	22	2.20	2	0.22	1	0.20	2	0.33			35	0.83	-1
(66) 突発性発しん	1	0.13	3	0.30					1	0.17	7	1.75	12	0.29	-9
(67) 百日咳					1	0.11							1	0.02	1
(68) 風しん															0
(69) ヘルパンギーナ			1	0.10									1	0.02	0
(70) 麻しん(成人を除く)															0
(71) 流行性耳下腺炎	6	0.75	1	0.10	1	0.11	15	3.00	3	0.50	4	1.00	30	0.71	7
(73) 急性出血性結膜炎			1	0.33									1	0.09	1
(74) 流行性角結膜炎	2	1.00	1	0.33	1	0.50	4	4.00					8	0.73	-15

保健所名	定点数			
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科 基幹
青森	13	8	5	2
弘前	16	10	6	3
八戸	14	9	5	2
五所川原	7	5	2	1
上十三	9	6	3	2
むつ	6	4	2	1
合計	65	42	23	11

は警報
 は注意報
 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

- (59) RSウイルス感染症(五類定点把握疾患) 弘前保健所管内: 9人 むつ保健所管内: 5人
 五所川原保健所管内: 3人 (17年計 81人)
- (82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 11人 (17年計 152人)

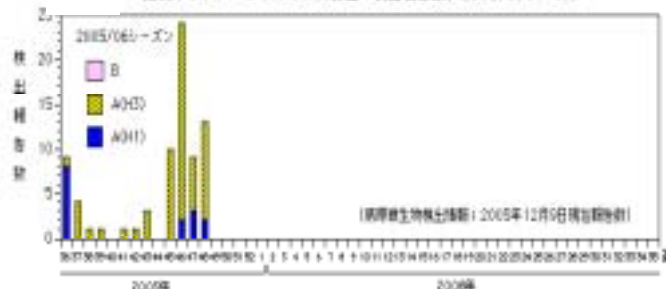
感染症の窓

インフルエンザ

図1 インフルエンザ年次推移表



図2 週別インフルエンザウイルス分離・検出報告数, 2005/06シーズン



2004/05シーズンのインフルエンザは、流行の開始が1月中旬と遅かったが、流行の継続期間が長く、近年において最も大規模な流行でした(図1)。B型が流行の主流で、全ウイルス分離数の56%を占め、次いでAH3型が41%、AH1型が3%と3種類の混合流行でした。分離例の年齢分布は、B型は小児では6歳、成人では30代にピークが見られました。これに対し、AH3型は12歳以下から主に分離されました。AH1型は2~10歳からの分離が主でした。また、非流行期の7月以降に沖縄県、奈良県でAH3型の流行が確認され、また、名古屋市で散発例からAH3型が分離されたことも大きな特徴でした。

今シーズンは、12月9日現在、AH3型が全国的に多く分離されています(図2)。これから流行のピークに向かうことから、今後の動向に注意が必要です。

<参考: 感染研感染症情報センター、病原体検出情報、2005年11月号>